



1. マーケット・レート

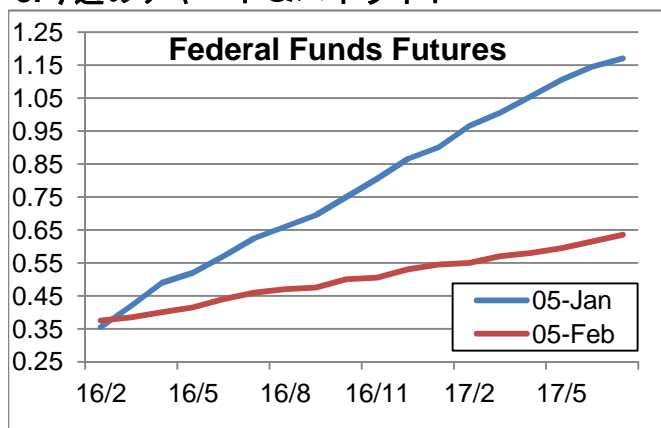
			2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.9630	3.9900	3.8960	3.8900	3.9030	+0.0130
	BRL/JPY	Spot	30.54	30.10	30.21	30.00	29.95	-0.05
	EUR/USD	Spot	1.0899	1.0916	1.1092	1.1211	1.1143	-0.0068
	USD/JPY	Spot	121.07	120.10	117.75	116.72	116.92	+0.20
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	14.32	14.40	14.32	14.34	14.43	+0.0864
	Future	1Year(p.a.)	14.46	14.61	14.54	14.61	14.61	+0.0021
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.999	2.871	2.676	2.727	3.048	+0.321
	USD	1Year(p.a.)	3.656	3.400	3.169	3.330	3.510	+0.180
株式	Bovespa指数		40,570.04	38,596.17	39,588.82	40,809.25	40,592.09	-217.16
CDS	CDS Brazil 5y		474.72	482.82	481.71	470.75	470.33	-0.42
商品	CRB指数		163.487	160.181	164.187	163.452	161.932	-1.520

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2. 週間市況、トピックス

- 今週はダドリーNY連銀総裁のハト派発言を受けてFRBの早期利上げ期待が後退、米金利が低下した。ドルの下落を受けて商品相場が全般的に上昇すると、ボベスパ指数が急反発しレアルは年初来高値をつけた。ブラジルでは2日に本年度の国会が開会したが、カーニバル休暇の前に政治的に大きな動きはなかった。
- 今週のレアルは3.9980で寄り付き、直後に週間安値となる4.0250をつけた。週初のレアルは大口の資金流入と思しきレアル買いで3.95台まで上昇後、12月伯鉱工業生産が予想以上に落ち込んだことを受けて4.02近辺まで反落するボラタイルな展開となった。週末にはNY連銀総裁のハト派発言を受けてドル全面安となる中、原油先物価格の反発でボベスパ指数が上昇したことも相俟ってレアルは週間高値となる3.8450を現示した。週末にかけては1月米雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を大きく下回ったことを受けてリスクオフムードとなると、一時3.92台まで反落し、結局3.9030で越週。
- ダドリーNY連銀総裁は3日、「世界経済の弱含みやドル高進行は米国経済に著しい影響を及ぼす可能性がある」との見解を示した。同日に発表された米ISM1月非製造業指数が市場予想を大きく下回ったこともあり、米2年債利回りは昨年10月以来3ヶ月ぶりに0.68%を割り込んだ。
- 伯中銀が発表したアナリスト予想集計では、2016年のGDP成長率予想が-3.00%から-3.01%へ引き下げられ、2017年も0.8%から0.7%に引き下げられた。インフレ率予想は2016年が7.23%から7.26%に5週連続で引き上げられ、2016年分も5.65%から5.80%へ上方修正された。一方、政策金利予想は2016年が14.84%から14.25%に下方修正された。2017年予想は12.75%で不変だった。

3. 今週のチャート&ハイライト



出所: Bloomberg

FRBの利上げ観測が後退

今週初めにフィッシャーFRB副議長は、世界経済の減速が米見通しに影響するとコメント。低インフレが幾分長く続く可能性が高いと発言した。更にダドリーNY連銀総裁が世界経済の弱さとドル高が米経済に大きな影響を及ぼす可能性を指摘したことを受けて、市場ではFRBによる利上げ期待が後退している。FF金利先物の市場を見ると、1ヶ月前は年内2回程度の利上げを織り込んでいたものが、現在は年内1回の利上げを織り込む水準まで下がっている。ドル金利の低下を受けてドルが大きく売られる一方で南米通貨は反発している。

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等によって生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、直しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されており、当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。



4. 来週の為替市場注目点

予想ドル・レアル相場レンジ：3.80－4.05

来週のブラジルはカーニバル休暇で10日の正午までマーケットが休場となる。ブラジルサイドには大きな材料はないものの、ブラジル祝日中の海外市場の動きを受けて、休暇明けのレアルはボラタイルな展開となるだろう。市場では10、11日のイエレンFRB議長の議会証言に注目が集まっている。米国では、先週の第4四半期GDP速報値の発表以降、景況感指数や雇用関連で市場予想を下回る指標の発表が相次いでおり、景気減速懸念が強まっている。これに伴い、FRBによる3月の利上げ期待が後退しておりレアルのサポート要因となっている。イエレン議長の議会証言がこの流れを後押しするようだとレアルは一時的にもう一段の高値を試す可能性がある。しかし、ブラジル経済は依然低迷し、汚職や大統領弾劾などの政治的問題も解決に時間を要すると見られることから、レアル買い一巡後は再び軟調に転じると予想する。

5. 本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	1.30%	1.53%	0.44%
ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前年比)	11.37%	11.65%	10.70%
ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前月比)	1.10%	1.27%	0.96%
ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	10.52%	10.71%	10.67%
ブラジル	CNI Consumer Confidence	--	98.6	96.3
米	貿易収支	-\$43.20b	-\$43.36b	-\$42.23b
米	非農業部門雇用者数変化	190k	151k	262k
米	失業率	5.0%	4.9%	5.0%

6. 来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
米	2/9	NFIB中小企業楽観指数	Jan	94.5	95.2
米	2/9	卸売在庫(前月比)	Dec	-0.1%	-0.3%
米	2/10	MBA住宅ローン申請指数	Feb 5	--	-2.6%
米	2/10	月次財政収支	Jan	\$10.1b	--
米	2/11	新規失業保険申請件数	Feb 6	--	285k
米	2/11	失業保険継続受給者数	Jan 30	--	2255k
米	2/11	ブルームバーグ消費者信頼感	Feb 7	--	44.2
ブラジル	2/11	FGV CPI IPC-S	Feb 10	1.70%	1.78%
ブラジル	2/11	貿易収支(週次)	Feb 7	--	--
ブラジル	2/12	FIPE CPI-週次	Feb 7	--	1.21%
ブラジル	2/12	IGP-M Inflation 1st Preview	Feb	--	0.41%
米	2/12	輸入物価指数(前月比)	Jan	-1.5%	-1.2%
米	2/12	小売売上高速報(前月比)	Jan	0.1%	-0.1%
米	2/12	小売売上高(除自動車/前月比)	Jan	0.0%	-0.1%
米	2/12	ミシガン大学消費者マインド*	Feb(速報)	92.5	92.0

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいよう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。